

春日山原始林・奈良公園フィールドワーク 第1回 概要報告

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

実施日：2021年7月22日（木）18:00~21:00

参加者：16名

現職教員等：5名 学生：6名 その他（講師関係者）：3名

担当：杉山、中澤

■実施場所：春日大社境内地・飛火野、春日山原始林

■第1回 春日山原始林の夕暮れ～夜（春日山遊歩道）

2021年7月22日（木・祝）18:00~20:30

概要：春日山原始林の夕暮れから夜にかけての時間を体験します。暗闇の中で森の音や空気を感じるともに夜の生き物たちの息遣いを感じます。

18:00 春日大社表参道（飛火野）バス停 集合

18:05 アイスブレイク（感性の体操、自己紹介）

18:15 御笠山遥拝

18:20~19:20 移動：春日大社表参道～春日山遊歩道南部

19:20~19:40 春日山遊歩道散策

19:40~20:10 夜を感じる（遊歩道に横になって過ごす）

20:10~20:40 春日山遊歩道を引き返す・解散

■概要報告

夕方に、春日大社境内の飛火野に集合し、夕方から夜にかけての春日山原始林のフィールドワークを実施した。冒頭はアイスブレイクとして、目を閉じて風、光、音を感じるアクティビティを実施したのち、自己紹介をかねて「自分の気に行った音」を紹介してもらった。その後は、春日大社の参道から、春日山原始林の遊歩道の南側から入り、道中の蝉の声や生き物（タゴガエル）等を観察しながら歩く。途中、森の中から月を眺めるなどして、ポイントまで移動し、軽食を取りながら夜の生き物として、ムササビについて紹介する。その後、遊歩道にそれぞれ横になり森を感じる時間とした。

30分弱の体験の中で、風の音や虫の音を感じた、ムササビについては残念ながら姿を表すことはなかった。その後、もと来た道を引き返す形で途中の生き物（ヤマナメクジ、カマドウマなど）を観察しながら下山。遊歩道入り口にて解散した。

■解説ポイント

- ・感性の体操（目を閉じて、風の吹く方向、光の差す方向を感じる、周辺の音に耳を澄ます）
- ・飛火野からの御蓋山・春日山の景観を確認
- ・奈良のシカ愛護会「鹿苑」について
- ・ヒメハルゼミの大合唱を感じる
- ・ムササビについて（妖怪の例えについて）

■実施しての印象

- ・今回は、森を感じることに重点を置いて実施した。原始林そのものに対する解説は控え、五感で森を体感することを主として体験してもらうよう意識した。
- ・照葉樹林の特徴的な昆虫である「ヒメハルゼミ」の鳴き声を浴びるように聞くとともに、日が沈むとその声がパツパツと止むことなど、時間によって森の音も変化することを体感してもらった。
- ・寝っ転がっての体験については、ムササビの気配はわずかしか感じることはできなかったが、シカの気配や、木々の葉の揺れる音、虫の声、風の音を感じることができたのではないかな。
- ・月明かりが非常に美しく、人工的な光のない場所で月明かりを感じる機会となった。

■写真

		
飛火野で五感で感じる体験	御蓋山・春日山を遥拝	月が出ている
		
月明かりが明るかった	月の見える場所で写真撮影	懐中電灯をつけて森を歩く